

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	学際的な枠組みを通じた東京における都市の公共空間で経験される空間の質に関する研究
Title(English)	Spatial Quality Experienced in Urban Public Space of Tokyo through an Interdisciplinary Framework
著者(和文)	NGUYEN-TRAN Yen Khang
Author(English)	Nguyen Tran Khang
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11968号, 授与年月日:2021年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:村田 涼,安田 幸一,奥山 信一,那須 聖,藤田 康仁
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11968号, Conferred date:2021/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Nguyen Tran Yen Khang	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	村田 涼	准教授	藤田 康仁	准教授
	審査員	安田 幸一	教授		
		奥山 信一	教授		
那須 聖		准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は「Spatial Quality Experienced in Urban Public Space of Tokyo through an Interdisciplinary Framework」と題し、以下の6章から構成されている。

第1章「Introduction」では、研究の背景と目的、研究の方法、従来の研究との関係、論文の構成について述べている。現代日本における都市の公共空間の質が、持続可能な開発目標に資する都市居住者の幸福度を高める上で改善の必要があることを指摘し、利用者が経験する空間の質を調査する方法として、空間および環境の状況と、利用者の経験に関わる各要素を横断的に分析する枠組みを提示し、さらに、東京に所在する建物の外部空間を対象に、都市の公共空間の質を高めるための主要因を明らかにするという、本研究の目的を述べている。

第2章「Interdisciplinary framework for research on Urban Public Space」では、国内外の関連研究における理論的枠組みを概観すると共に、日本における公共空間の特性を指摘し、利用者が経験する公共空間の質は、空間や環境の状況および人々の経験に関わる要素が相互に関係することで決定されることを示し、それらを横断的に調査するための方法として、利用者の意志や行動、空間、環境の相互関係に基づく枠組みを提示している。さらに、次章以降でこれを適用し検討する、複数の用途を有する建物の外部空間について、各事例の特徴と本研究における位置付けを述べている。

第3章「Spatial quality experienced in Urban Public Space with community resilience: The case of Renovated Open space with Urban gardening」では、農林水産省による市民農園の統計に基づき選定した、東京の中心部および郊外にある2事例を対象に、アンケートと観察調査および全方位画像をもとに抽出した、活動と行路および印象という尺度を用い、使い方、空間のアフォーダンス、独自の印象という3つの要素を導き、利用者が経験する空間の質を考察している。その結果、改修によって都市菜園が付与された、これらの公共空間の質には、地域のライフスタイルに応じた様々な使い方、柔軟な空間のアフォーダンス、良好な独自の印象に基づく7つのシナリオが存在することを明らかにしている。

第4章「Spatial quality experienced in Urban Public Space with integrated green space: The case of Rooftop Garden」では、都市緑化機構による緑地の認定制度に基づき選定した、東京の中心部にある4事例を対象に、前章の枠組みを発展的に適用し、天候の違いが及ぼす利用者への影響を変数に組み込むことで、利用者の経験における予測可能な様相、予測不可能な様相という弁別的な特徴を検討している。その結果、行路には5種類の構成が見出せ、また、これらの間には、天候によって空間のアフォーダンスに関わる質に変化が生じることを明らかにしている。

第5章「Factor for the facilitation of the investigation of spatial quality experienced by the user in Urban Public Space」では、前章までの検討内容を総合し、都市の公共空間で人々が経験する質に関わる中心的な要因について検討している。その結果、空間のアフォーダンスと行路の間には密接な関係があること、改修によって都市菜園が付与された事例では、空間のアフォーダンスが様々なシナリオの適用に影響を及ぼしていること、都心の屋上庭園の事例では、空間のアフォーダンスの変化によって、空間の経験の質が漸次的に変化することを明らかにしている。

第6章「Conclusion」では、前章までの結果をまとめ、本論で得られた知見を総括している。

以上を要するに、本論文は屋外の公共空間の質を検討するための体系的な枠組みを示すと共に、それらの空間の質に関わる中心的な要因を明らかにしたものである。この結果は、現代日本の都市の公共空間を改善する方法論を、人・空間・環境という横断的な視座から位置付けるものであり、持続可能な都市生活の展開に新たな知見を与えるものと考えられる。従って、本論文の成果は、建築学および工学に貢献するところが大きく、博士(工学)の学位論文として十分に価値のあるものと認められる。

注意: 「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。